

### 第3回議事録（要旨） 日時：令和2年11月12日 10:00～11:50

#### ① 「木の文化都市・金沢」の継承と創出に向けての取り組み

- ・「市が取り組むべきこと」として取りまとめているが、「産」や「学」と連携することを前面に打ち出した方がよい。
- ・新たな研究体制を構築するためには、「産」や「学」の力が必要。
- ・木造業界のためにやっていると映らないよう、「みんなで一緒にいいまちを造ろう」という感じで幅広い業界から参加してもらうべき。
- ・木を使用する側の論理だけにならないように注意。供給側との連携もより一層図る必要がある。
- ・新築は大規模な建築でも技術開発がかなり進んできているが、伝統的な構造の既存建築物の活用についてはまだまだ研究が必要。
- ・今回の資料で木材活用のための制度の作成は短期に取り組むべきこととしているが、成果としてまとめるまでには時間が必要。
- ・様々な主体を巻き込み、外部資金を上手く活用して取り組むと良い。さらに様々な主体と連携し取り組むことが、意欲的な設計や事業につながっていくとなお良い。
- ・木材を積極的に出荷している都市との連携も大切。
- ・環境性能についても考えるべき。SDGsにもつながるが、最初からそのキーワードに触れることで、その分野の業種も参入しやすくなる。
- ・「環境」や「工芸」のテイストを打ち出すべき。
- ・6つの柱は並列ではなく、階層性をもったものである。それぞれ独立しているものではなく、相互に関係していくものであると考える。
- ・民間との協働でプロジェクトを立ち上げ、進めていくことはとても価値がある。またその経緯を発信していくことも大事である。

#### ② モデル地区での取り組みについて

- ・モデル地区は今後、「木の文化都市」を様々な主体が一緒になって進めていくための非常に重要な役割を果たすと考えられる。具体的なプロジェクトがあるとイメージを共有しやすい。
- ・モデル地区は多くの木造建築が残っているが、現在は防火地域であり、設計の自由度はある程度限定されるのではないかと。
- ・地域防災上、まずは現行規制の範囲で進め、課題が見えてくれば防火規制のあり方について検討していく必要がある。
- ・モデル地区内に具体の対象があれば参画したい設計者は多いと思う。
- ・木造の耐火建築は今では技術がかなり進んでいるので、新築の場合費用はかかるができる方法はある。既存の建物をどう考えていくかが大事。
- ・尾張町をモデル地区とする一番の理由は、新旧の建築が長い年月をかけて織り交ざっているためであり、モデル地区としてより新しいことに挑戦していくことで、歴史の帯がつながり、ミックスされた建築の良さが増していくと考えられる。
- ・尾張町は重要文化的景観のエリアでもあり、その思想も考慮していくべき。
- ・「今の法律でできるか」「将来どうあるべきか」を両輪で考えるべき。今のみにとらわれてしまうと、議論がとても制限されてしまう。
- ・モデル地区での取り組みや公共建築の木装化により、実物を見せることで発信していく。
- ・伝統構法木造建築の耐震要素の考え方も金沢で作ったものが全国で使われるようになった。この「木の文化都市」も金沢らしさが全国への広がりが出ていくと良い。
- ・新しい建築も古い建築と同じレベルまで洗練されたものとならなければ、街並みとして広がらないのではないかと。